

横幕作一さん(92) 18町内会
 初枝さん(92)

岐阜県岐阜大垣出身の研一さん(昭和32年、66歳で逝去)、タマさん(同38年、66歳で逝去)の長男として育った入植2代目、尋常高等小学校を卒業後、小作農家の父を継いで15歳で働き始めました。

「じいさんが腰悪くしてね。学校卒業しなくても田んぼに追いやられたんだ」。小作として働いていた田んぼは1号2線。約4町歩(約4畝)の広さだったようです。9人姉弟の長男として懸命に働き、終戦後の1946(昭和21)年、約500坪離れて同じ地区に住んでいた山田家の初枝さんと23歳で結婚しました。

「青年会でしょっちゅう顔合わせてたそうですよ。夕方になると馬を洗わなきゃならないでしょ。田んぼから帰って来ると、恋文を抱えてその馬で大急ぎで駆けて行って、親せきの人に『これ渡してくれ』って毎日会いに行っていたそうですよ。篠原さんが仲人に入ってくれて、お父さんが話をまとめたみたい」 11長男義信さん(68)の妻七七代さん(68) 12と逸話が残っている大恋愛でした。二人は美男美女同士的好习惯でした。

初枝さんとの結婚は、今年3月めでたく

結婚70周年。親戚一同でブラチナ婚を祝うことが出来ました。



初枝さんは日本民謡協会の雅号名「希竜」を持ち、(公財)日本民謡協会(東京)の民謡

民舞北海道道北地区連合大会で4度の優勝経験を持つ民謡名人。1960(昭和35)年から民謡を始め、田んぼ仕事をしながらあぜ道などで練習を欠かさなかったそうです。

得意なのは江差追分。節回しが難しい難曲ですが、草刈り時期には「ソーイ、ソー」と作一さんも合いの手を入れ、唄声(うたごえ)が遠くまでよく響いていたそう。

4人の息子たちの結婚式すべての席で唄ったそうです。「農家だから理解がなければこんだけやらせてもらえなかった」

「父さんに一生懸命教えたんだけど、父さんはダメなんだよ」。作一さんは、師匠の所への練習、江差追分大会出場時には道南・江差町への送り迎えもいとわなかったそうです。デイケアで行っているひだまりの里の誕生会では、今も衰え知らぬのどを披露しています。

俳句

鯉のぼり次男えちごへ転勤す
 遠山を横目でにらみこいのぼり
 春うららダイヤモンド婚のサプライズ
 背中など見せない強き花満開
 少しずつ風の出てきて鯉のぼり
 小包の受け取り戻る田植え時
 ベランダの産着と泳ぐ鯉のぼり
 飛んでよし弾けて嬉ししやばん玉
 手をとって歩幅を合わせ春の旅
 十二時のサイレン岬の町の鯉のぼり
 感謝して生きる子になれ鯉のぼり
 桜散る一片くわえ寄るアヒル
 風にゆれしつば甘えてこいのぼり
 晴天に水の音あり鯉のぼり
 手作りの孫に小さな鯉のぼり
 進学やおめでとうありがとうと旅立ちぬ

保科なほ
 徳光吐苦
 杉山りつ
 こばやし 星来
 横田則子
 若田久
 高瀬潤
 石澤清宏
 三島智
 若田郁
 本田咲
 佐々木りえ
 山内みゆ
 小林ろば
 高橋公花
 杉山 ひろのり

